

年齢	言語・コミュニケーション		対人関係能力		非言語性の外界認知能力	
	言語能力	人との遊び	社会性	自己主張とききわけ	もので遊ぶとき	
1歳3ヶ月	簡単な言いつけが分かる 「くつ、もっておいで」	大人に甘え、ふざけて遊んでもらう	けじめやきまりに関心もないし、理解もできない。それでもみんなと一緒にしたことが一人遊びよりも面白かったという体験を重ね、将来の社会性への根が作られる。 (世界は自分を中心に回っている)	自分の意思をしっかりと持ち、相手にぶつける	まだ造形の意図がない。積んだり崩したり描画を残したり、はめたりはずしたりが楽しい。	
1歳後半～2歳	問いかけに返答する 「食べるの？」→「タベル」	(子ども同士で遊ぶようになる) レジスターごっこや怪獣ごっこで短時間のやり取り		気持ちにはゆとりのあるときには、相手の意見を受け入れる。	造形の意図をもって遊ぶ。積み木でトンネル、クレヨンで顔を描く。 自分イメージの実現のために物品を取り扱う。(転用する)	
2歳後半～3歳	さっきの出来事、別な場所での出来事を報告できる	(集団意識のめばえ)	集団場面には、何か約束事があるらしいと気づき始めている。しかしルールが分からず心細い。お手本を示してくれる友だち、手をとって応援してくれる先生を求めている。	場面や事情に合わせて振舞うべきである、と理解し始める。	(小動物をいたわること、相手の痛みが分かることも2歳後半からである)	
3歳後半						
4歳後半以後		(グループ遊びができる) ジャンケンの勝敗がわかる ルールがわかる	今、どういう事情なのか、自分はどういう立場なのかを理解できる。 役割、善悪、ルール違反がわかる			